

令和5年度特別展

やま

ふく

あけ

み

山

福

朱

実

原画

吉

田

延

絵画

展

よし

だ

のぶ

— 未明童話「砂漠の町とサフラン酒」など —



入場無料

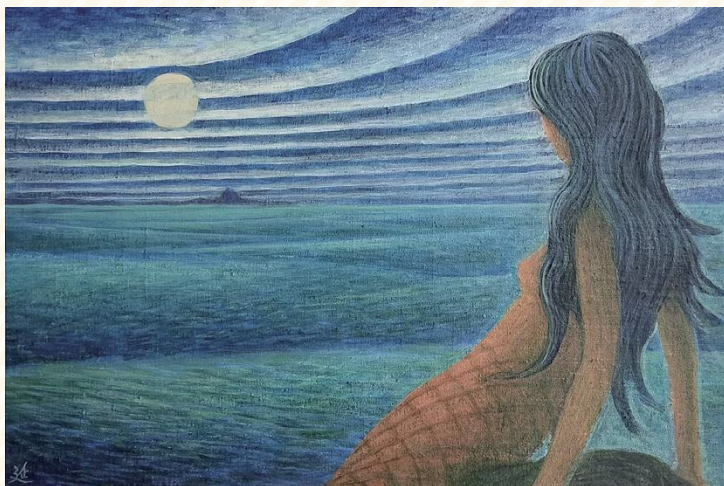
山福朱実画「砂漠の町とサフラン酒」2005年架空社

令和5年

10月7日 土

12月24日 日

会場 小川未明文学館 市民ギャラリー



吉田延画「月の明るく照らす晩に」1989年

開館時間 10:00~19:00 (土・日曜日、祝日は18:00まで)

休館日 月曜日(10/9は開館)、10/10、10/19、11/16、11/24、12/21

主催：上越市 共催：日本近代童話の父 小川未明顕彰会

【お問合せ】

小川未明文学館

〒943-0835 新潟県上越市本城町8-30(上越市立高田図書館内)
TEL: 025-523-1083 FAX: 025-523-1086
<https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/mimei-bungakukan/>

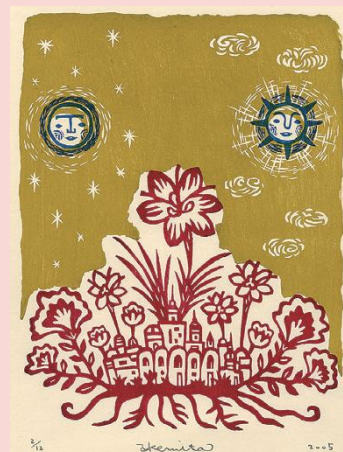


小川未明 「砂漠の町とサフラン酒」

—— 砂漠の向こうの青い山から発掘されるという宝石を掘り当てるため、男たちははるばると砂漠のなかを旅してきます。しかし、彼らを待ち受けているのは、世界中から連れ去られてきたという女たちが住む、赤い砂漠の町とサフラン酒だったのです。

美しい女たちに振る舞われる、美しい紅い色をしたサフラン酒は、しだいに旅の男たちをとりこにしてしまいます。男たちは、ついにサフラン酒に気力をうばわれ、ふたたび故郷をみることなく、砂漠の町で果てていくのでした。——

初出：大正14年（1925）6月『童話』



山福 朱実 画「砂漠の町とサフラン酒」

山福朱実

1963年に福岡県北九州に生まれ、1987年より絵の仕事を生業とする。

絵本に『ヤマネコ毛布』（復刊ドットコム）、『ぐるうんぐるん』（農文協）など、挿絵に石牟礼道子『水はみどろの宮』（福音館文庫 2016）などがある。木版画での出版は本作が初。憧れと幻想と、そしてうらみと悲しみに満ちた『砂漠の町とサフラン酒』の世界を、美しく、そして妖しく描き出した。



吉田 延 画「牛女」1989年



吉田 延 版画「島の暮れ方の話」1990年

吉田延

1930年、兵庫県神戸市生まれ。洋画家伊藤継郎に師事。24歳で結婚後、夫の転勤に伴い、ケニア、オーストラリア、ブラジルに住む。帰国後、精力的に個展を開催。夫の死後、1990年頃より未明の童話に惹かれ、幻想的世界を作品化していく。アクリル画や、エッチング・アクアチントの技法を用いた版画で制作された作品は、画家の精神の記憶が深く刻まれ、やさしさ、悲しみ、祈りにあふれている。1999年死去。

文学館講座 各回とも14:00～15:30

第1回 10月21日 土 「竹久夢二と小川未明

～紡がれる大正ロマンの美、二人の交流～

講師：石川 桂子さん（竹久夢二美術館学芸員）

会場：小川未明文学館

第2回 10月28日 土 「金子みすゞのうれしいまなざし

－みんながって、みんないい。－

講師：矢崎 節夫さん（金子みすゞ記念館館長）

会場：上越市市民プラザ

第3回 11月18日 土 「小川未明と宮沢賢治の接点」

講師：小埜 裕二さん（上越教育大学教授）

会場：町家交流館高田小町

*申込み等詳細はHPをご覧ください。参加無料

特別展おはなし会

10月29日 日 14:00～15:00

パネルシアターや映像・音楽を用いた朗読で、未明童話を表現します。どなたでも楽しめます。

会場：小川未明文学館

出演：未明ボランティアネットワーク

演目：「金魚売り」 未明童話の会
「島の暮れ方の話」 グループ空
「ひすいの玉」 お話の会うさぎ
「月とあざらし」 シャーフの会

*申込み不要、参加無料